実　践　報　告
CCL(本音で地域連携のあり方を検討する会)

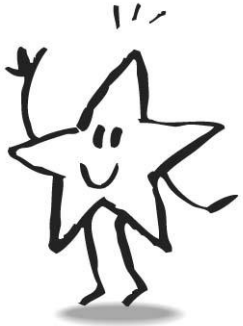
# 自己紹介

- 平成6年　北海道教育大学教育学部附属釧路中学校　卒業
- 平成9年　北海道釧路湖陵高校　卒業
- 平成14年　東北福祉大学　卒業
- 平成22年　東北福祉大学大学院　修了

- 平成14年　(財)財団法人明理会　西仙台病院　医療相談室
- 平成14年　(財)財団法人明理会　介護老人保健施設　丸森ロイヤルケアセンター
- 平成16年　国立学校法人　東北大学病院　地域医療連携センター
- 平成17年　(財)仙台医療センター　仙台オープン病院　医療相談室
- 平成18年　釧路町役場介護健康課　(地域包括支援センター)

- 平成19年　(社)北海道社会福祉士会　道東地区支部釧根連絡会　事務局長
- 平成20年　(社)北海道社会福祉士会　釧根地区支部　事務局長
- 平成22年　CCL(本音で地域連携のあり方を検討する会)　調査班長
- 平成22年　釧路地域リハビリテーション推進会議　運営委員

(独)福祉医療機構社会福祉振興助成事業として、
**マイノート**(多機能型自立支援手帳)を3月に発行



# CCLの語源

## C　ooperate

- 連携する

## C　reate

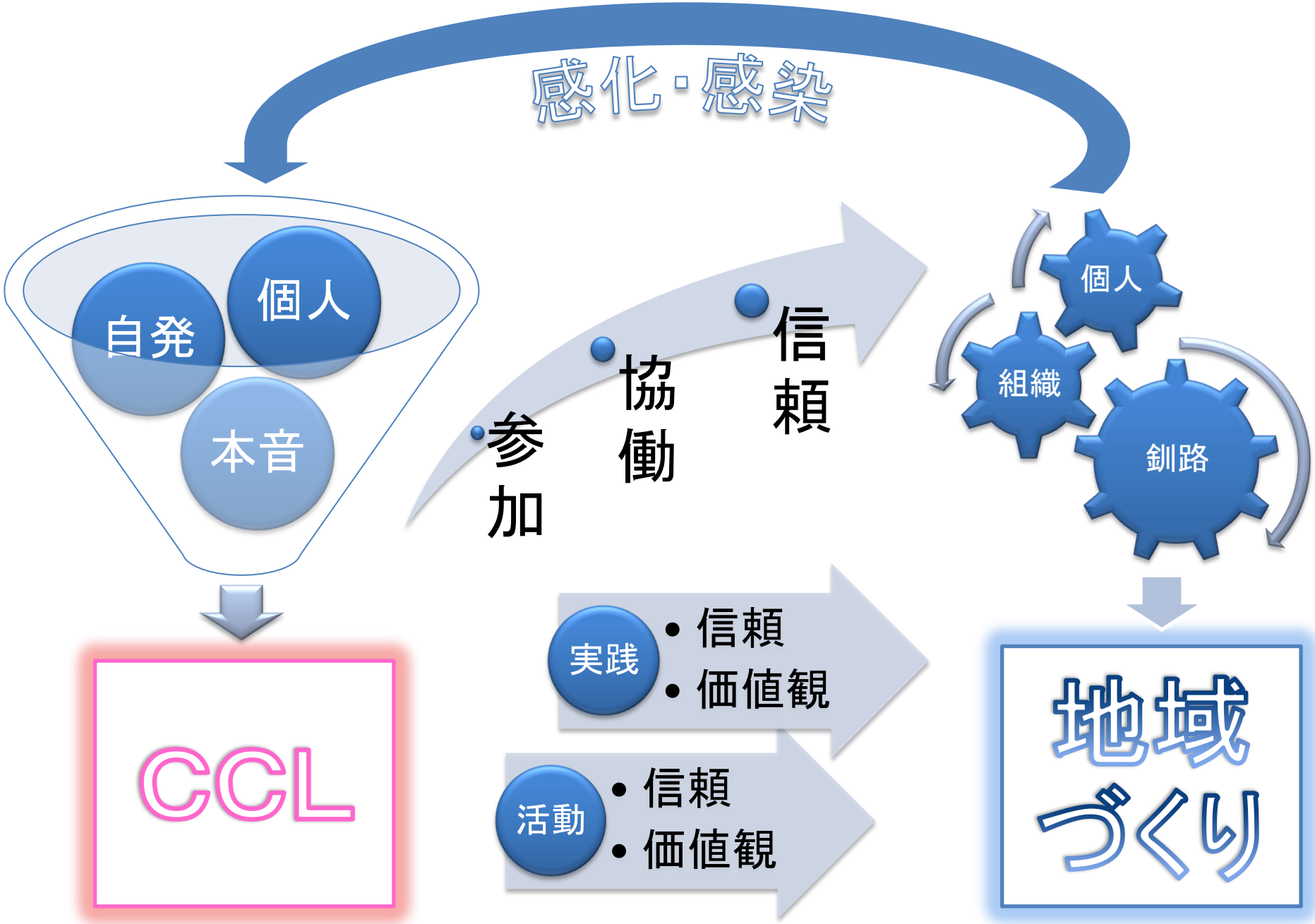
- 創造する

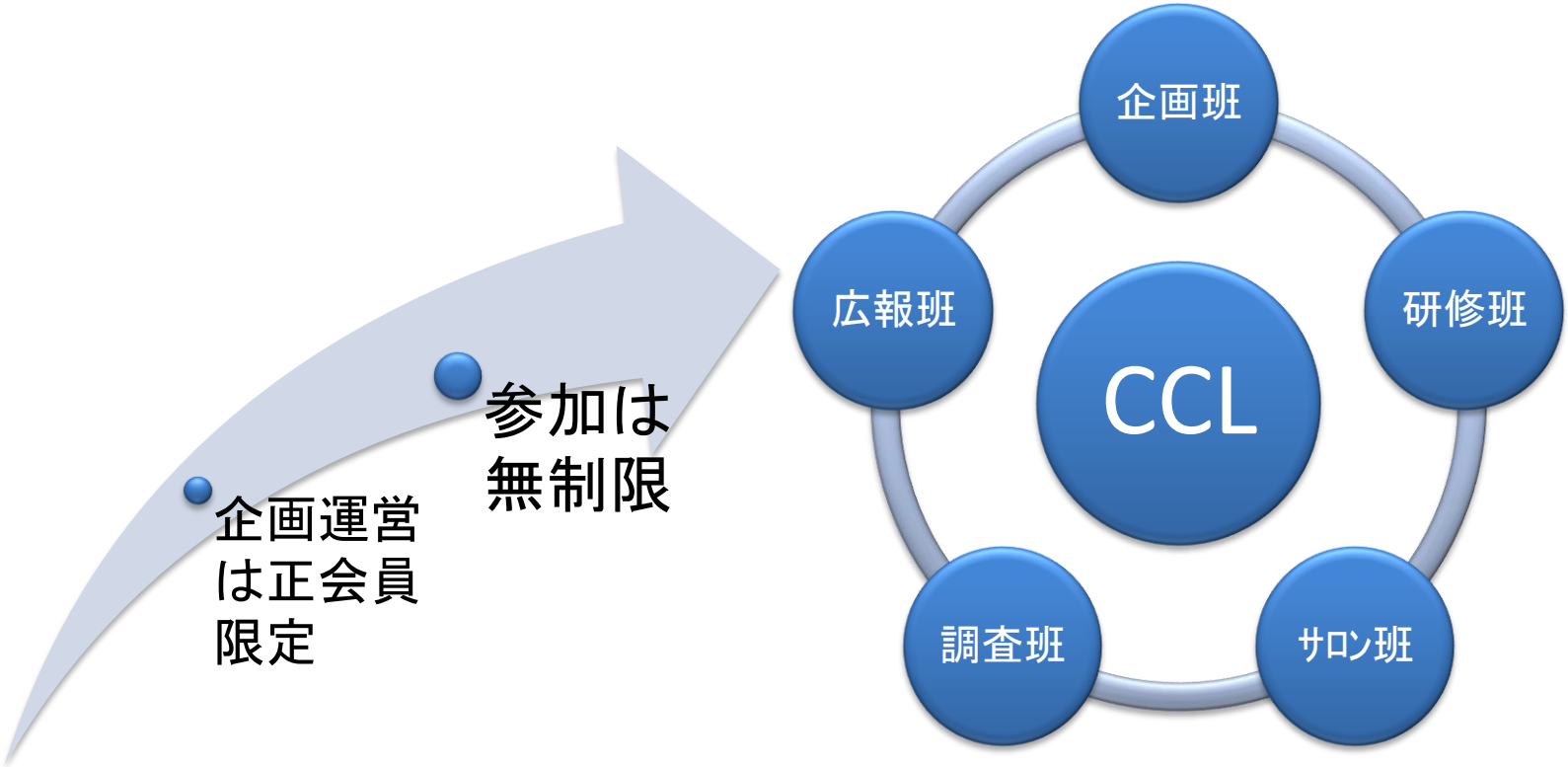
## L　ive

- 人生を楽しむ

# ＣＣＬ

(本音で地域連携のあり方を検討する会)


感化・感染
自発
個人
本音
CCL
参加
協働
信頼
実践
• 信頼
• 価値観
活動
• 信頼
• 価値観
個人
組織
釧路
地域づくり




- 企画運営に携わることでCCLを応援したい人
- 会費千円／年

## 正会員

- 資金面でCCLの活動を応援したい
- 団体)5,000円/口
- 個人)500円/口

## 賛助会員

- 参加することでCCLを応援したい人
- 会費無料

## 参加会員

## 企画班

- CCL全体の企画運営に関することを話しあう。

## 研修班

- 「本音の語り」と「ワークショップ」を融合させた研修会の企画運営

## サロン班

- 気軽に参加して、情報交換や名刺交換ができる場の企画運営

## 調査班

- 多職種連携をテーマとした質的調査の企画実施

## 広報班

- CCLの取り組みに関する広報活動として、ブログを適宜更新

# 企画班

2009.10月
～12月

- 3団体実行委員会)北海道社会福祉士会釧根地区支部、北海道医療ソーシャルワーカー東支部、釧路地区介護支援専門員連絡協議会

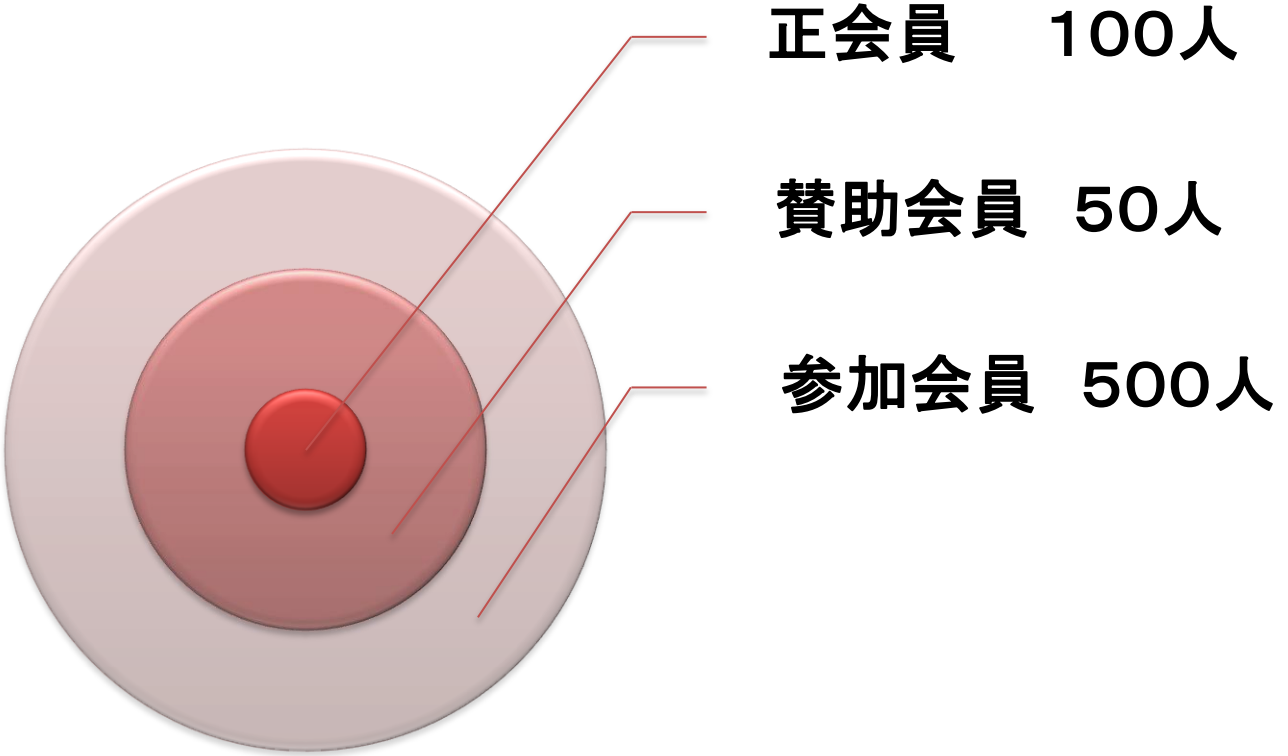
12月
～2010.07月

- 事務局会議
- 発起人14人による会議を7回実施する。

2010.08月
～現在

- 会則が施行となる。
- 企画班(他の班と同等の位置づける。)

# 企画班-CCLの目標【3年後】



会員数を増やす。

シンポジウムを開催する。

# 研修班 【本音で語ろう！退院支援と地域連携】

**第1回　平成21年12月17日**

テーマの課題を6つの視点から話し合うことから始める。

↓

**第2回　平成22年5月21日　釧路労災病院　　【お品書き】**

5つのサブテーマ毎に課題を整理し、解決方法を検討した。

↓

**第3回　平成22年11月12日　市立釧路総合病院　【お品書き】**

最も優先順位が高く、効果の高い解決方法の集約を行った。

↓

**第4回　平成23年1月13日　ふたば診療所研修室**

「情報の共有化」という解決方法に焦点を絞り話し合いを行った。

↓

**第5回　平成23年3月11日　ふたば診療所**

「情報」の共有を図るための具体的な方法について話し合った。

# お品書き

- 連携に関する業務における時間の確保

- 多職種との役割分担

- 多職種との目標の共有化

- 多職種との信頼関係づくり

- 多職種との情報の共有化

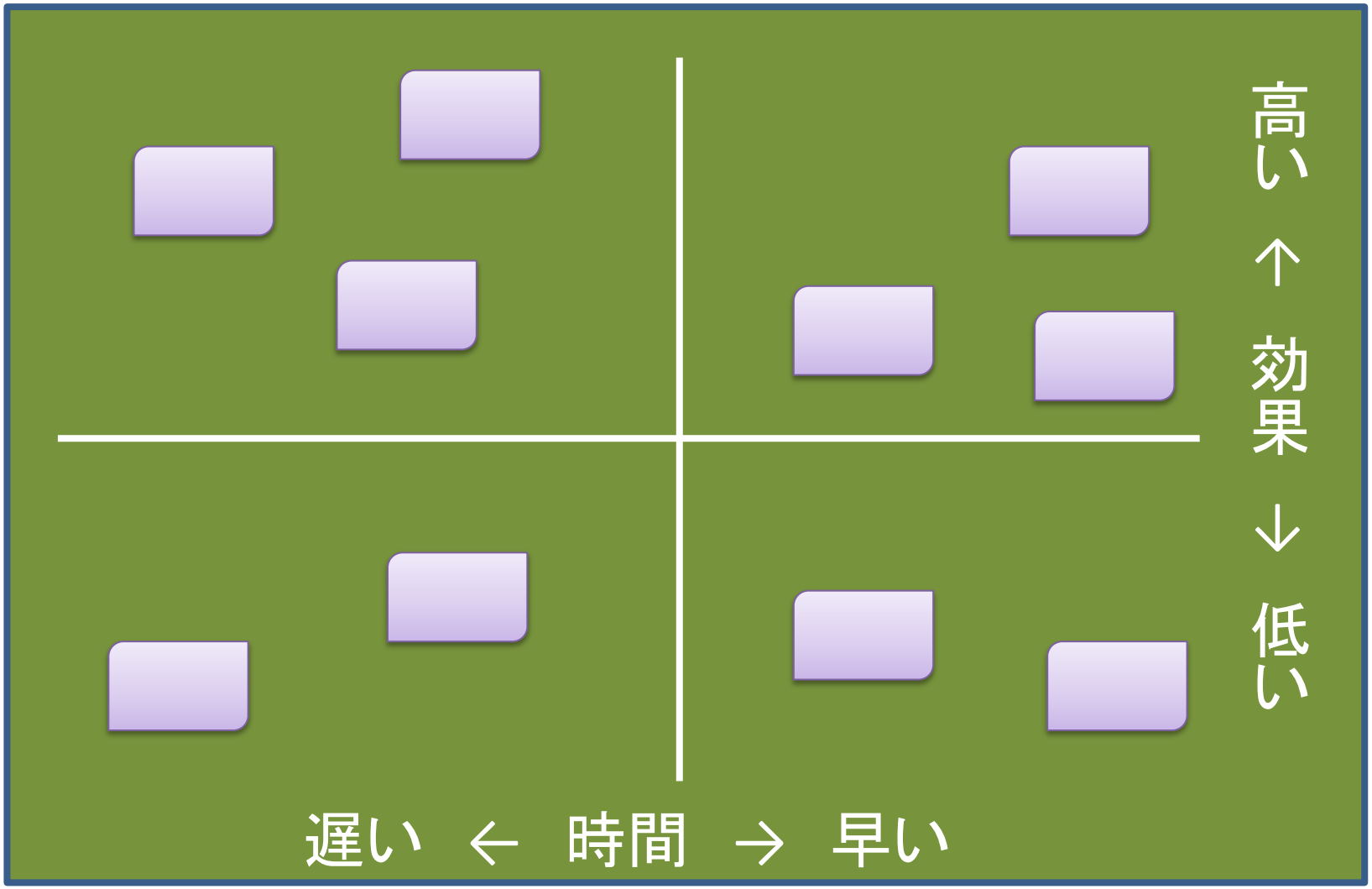
平成22年11月12日

# 本音で語ろう!退院支援と地域連携VOL.3から

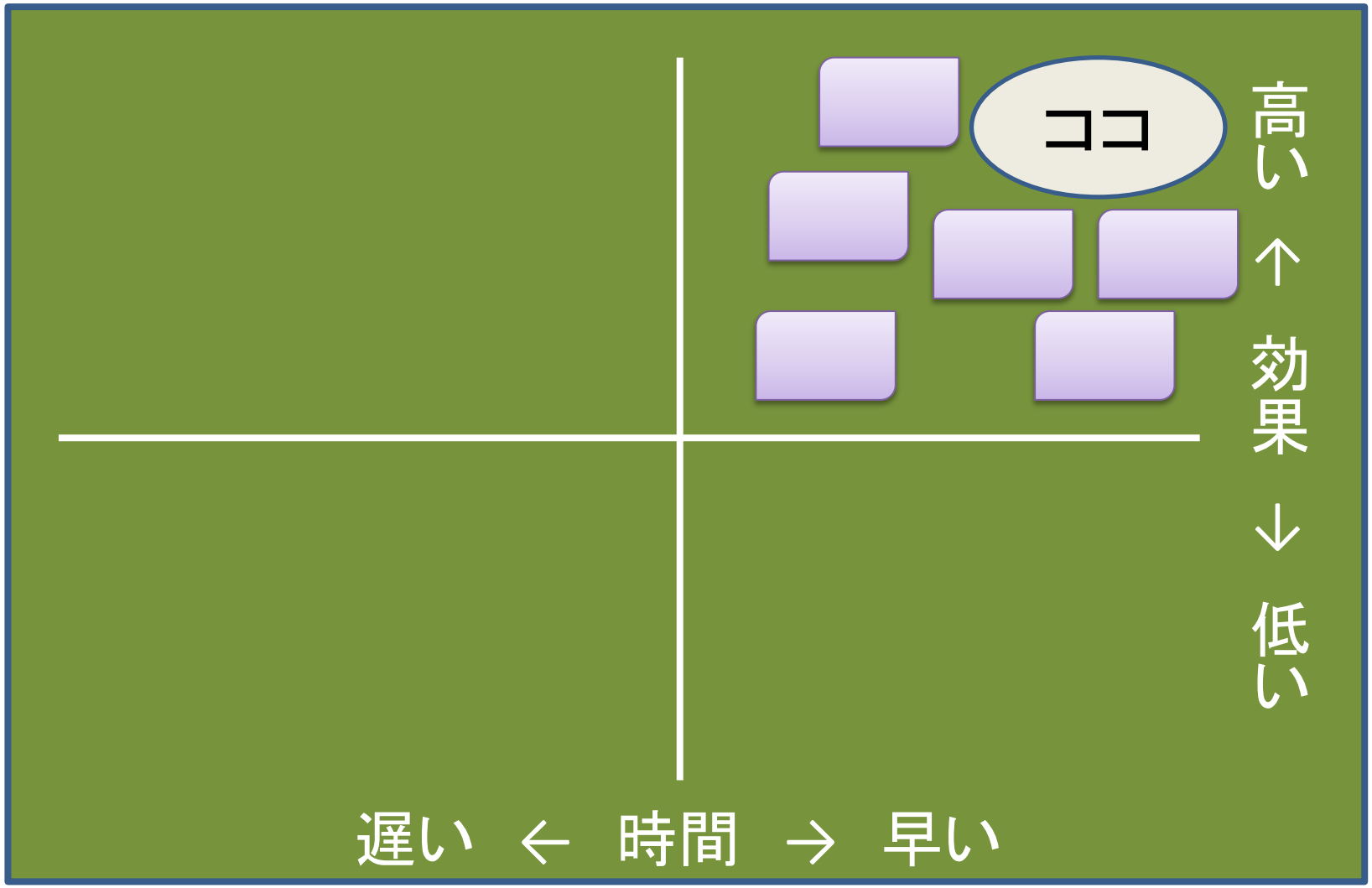
# １８時５５分まで
# 名刺交換・情報交換の時間です。

本日の研修会にご参加頂きありがとうございます。

# 模造紙の使用方法



# 模造紙の使用方法



15 16 1 2

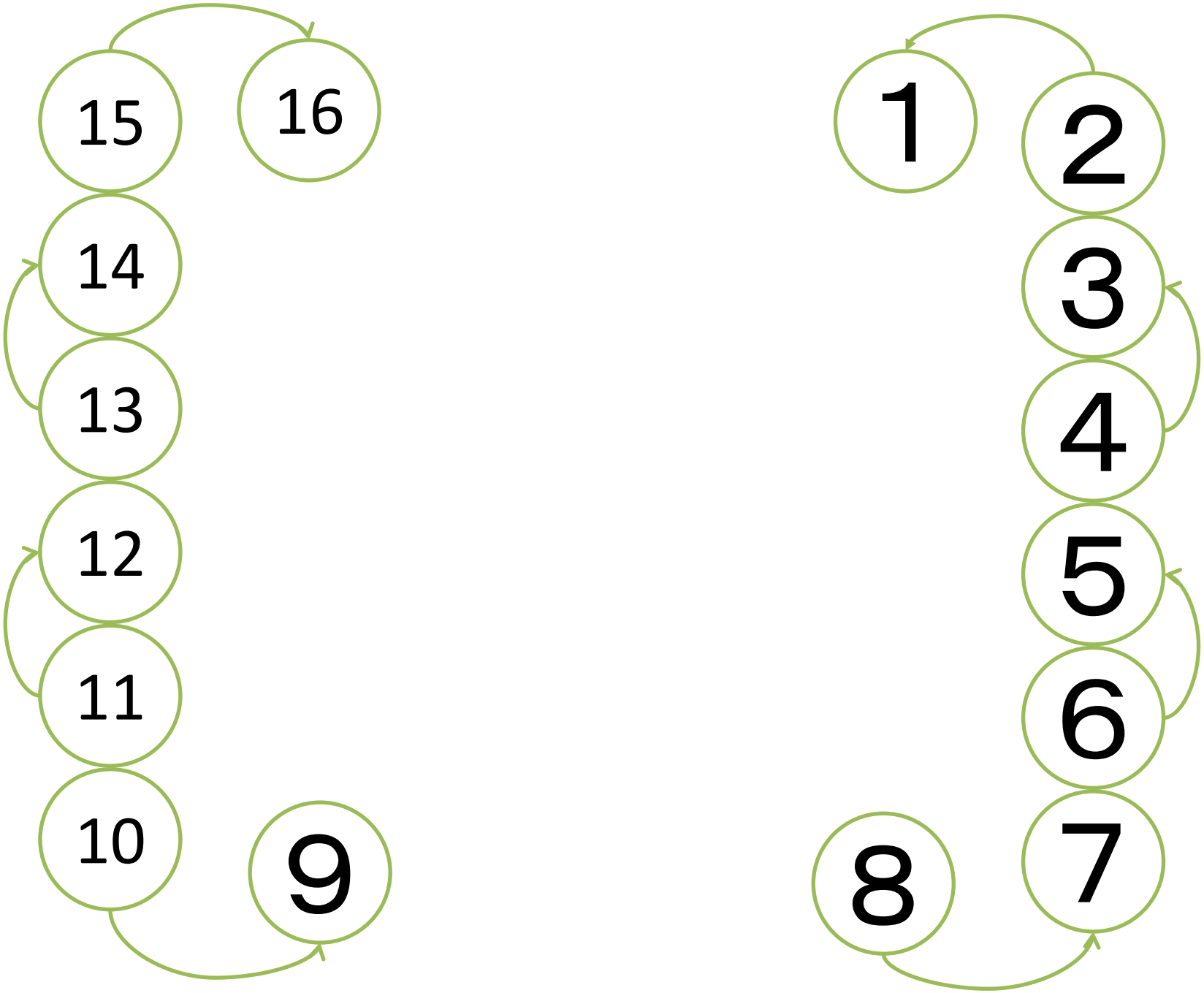
14 3

13 4

12 5

11 6

10 9 8 7


15
16
14
13
12
11
10
9
1
2
3
4
5
6
7
8

15/16

14/13

11/12

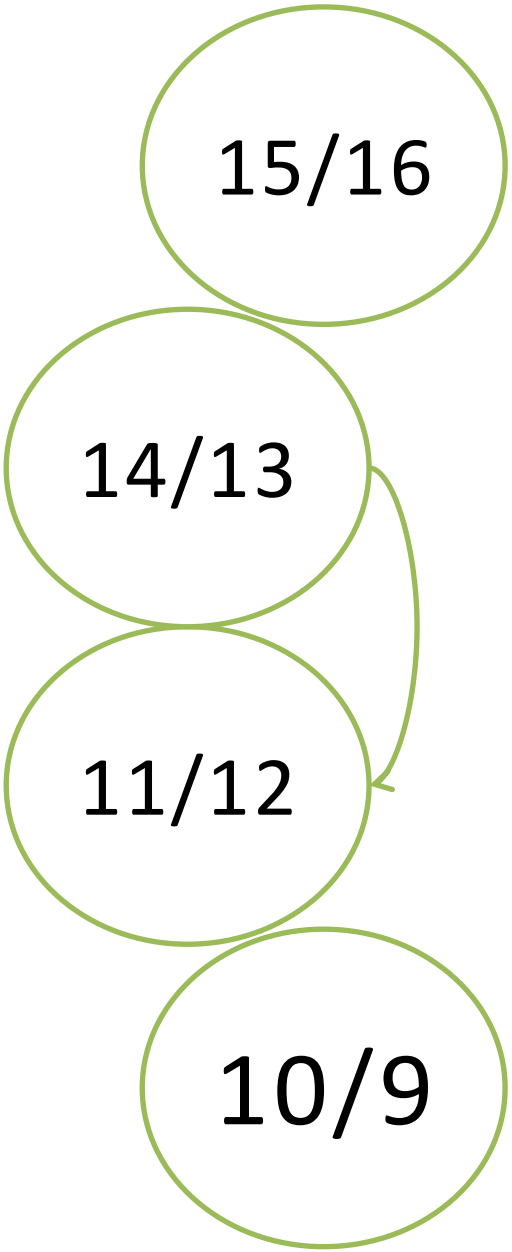
10/9

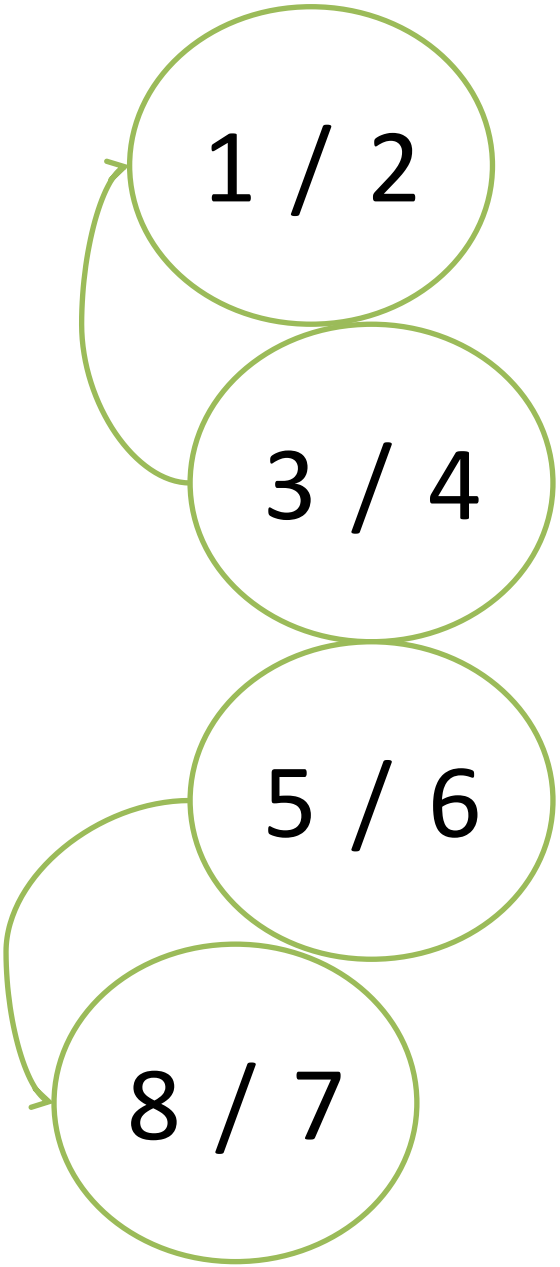
1 / 2

3 / 4

5 / 6

8 / 7


15/16
14/13
11/12
10/9


1 / 2
3 / 4
5 / 6
8 / 7

15/16

11~14

10/9

1~4

5~8

“形式知”と“暗黙知”

# “情報の共有化”と“信頼関係”

# 互知創サロン班 【今さら聴けないこんなことの会】

「互」 気軽に集い、リラックスした雰囲気で職間の垣根なく交流ができる場

「知」～普段なかなか聞けないようなことを学習・意見交流・情報交換できる場

「創」～日常の仕事に役立てる関係を構築し、釧路地域の連携づくりについて考える場

偶数月の第3水曜日に定例開催

講師を招いてのミニ学習、参加者全員による質問や意見・情報交換による顔の見える関係作り。

フリータイムでは、自然発生的な名刺交換

# 互知創サロン班 【今さら聴けないこんなことの会】

**第1回**
- 谷藤　公紀　医師　(CCLメンバー)
- 訪問診療実践を中心に

**第2回**
- 杉元　重治　医師　(CCLメンバー)
- 内視鏡実践を中心に

**第3回**
- 野瀬　千恵美　社会福祉士　(MSW)
- 連携室設置までの経緯と実践について

**第4回**
- 野呂真貴　看護師　(緩和ケア認定看護師)
- 緩和ケア

**第5回**
- 三上育子　看護師　(ER副師長)
- ドクターヘリの運行・活動状況について

2011年2月16日

# 第５回互知創サロンから

# ごちそうサロン入口調査

あなたの職種はズバリ↓↓↓どれですか？？

| | | |
|---|---|---|
| 医師 | ●● | |
| 歯科医師 | ● | |
| 看護師 | ●●●●●●●●● | |
| 保健師 | ● | |
| 助産師 | | |
| 薬剤師 | ● | |
| 理学療法士 | ● | |
| 作業療法士 | ● | |
| 言語聴覚士 | | |
| 鍼灸師 | ● | |
| 社会福祉士 | ● | |
| 精神保健福祉士 | | |
| 医療ソーシャルワーカー | | |
| 生活（支援）相談員 | | |
| 介護福祉士 | ● | |
| ヘルパー | | |
| 介護支援専門員 | ●●●● | ● |
| その他（　　） | ● | ●● |

ご協力ありがとうございます！！　2011/2/16

# 調査班 【釧路管内における保健・医療・福祉領域における連携の実態と課題に関する調査】

釧路管内の保健・医療・福祉領域で勤務する専門職間の連携をテーマに多職種による共同研究

多職種連携の実態把握と課題分析を行い、連携における専門職の役割、連携を阻害・促進させる要因等を明らかにする。

多職種連携の促進、利用者の生活の質の向上が目的とする。

# 連携調査の予定

### 2010.1月～3月
- 文献レビュー
- 調査案の骨子検討

### 2010.3月～5月
- 全数調査の企画
- 釧路地域リハと協働

### 5月～7月
- 質的調査
- CCLとして

### 8～11月
- インタビュー調査
- 3グループ ×14人

### 12月～201.3月
- 調査のまとめ
- データ化

### 4～7月
- 分析
- まとめ

【用語の意義】

さまざまな場面で使用される「連携」の意義は、それぞれの専門職の捉え方を明らかにすることも本調査を実施の目的の一つとしているが、この調査の実施にあたり、仮に「2人以上の専門職が共通の目標達成を目指して展開する過程」とする。特に、「共通の目標達成を目指して展開する過程」については、意識している場合、意識していない場合、言語化している場合、言語化していない場合なども含む。

【内容】

①業務経験 ②多職種との関わり ③他の職種とのつながり ④連携がうまくいくときの要因 ⑤連携がうまくいかないときの要因 ⑥連携がうまくいったときの気持ち⑦連携がうまくいかなかったときの気持ち⑧連携に関する不安の意識 ⑨連携の必要性 ⑩連携における工夫 ⑪連携のプロセス ⑫連携することのメリット⑬連携することのデメリット⑭専門職の役割 ⑮利用者の位置 ⑯連携の評価基準 ⑰連携に必要な能力 ⑱まとめ

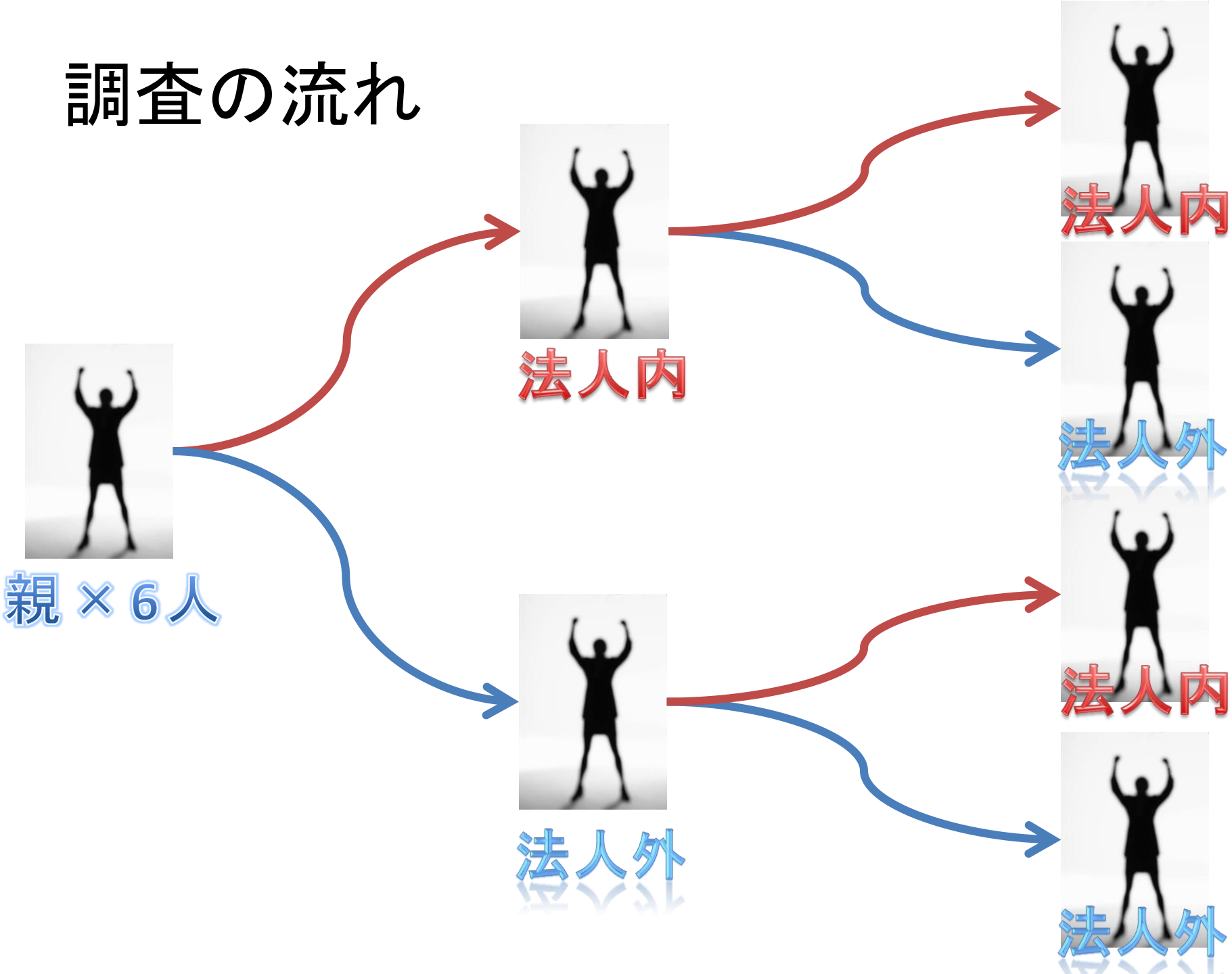
【調査対象】

釧路管内で勤務する保健・医療・福祉領域の専門職の6人から、法人の内と外で「日頃よく連携している人」を1人ずつ紹介してもらい、さらに1人ずつ照会してもらい、42人を対象としている。

【倫理的配慮】

調査の実施にあたっては、調査の目的や内容、個人情報の取り扱いなどについて説明を行い、同意書に必要事項を署名して頂いている。

# 調査の流れ



# 広報班

ブログを配信中

http://yonemachi.blog.ocn.ne.jp/ccl/

メルマガの配信準備中

# 真の専門主義[1)]

- クライアントのＱＯＬの保持という目標に対して、自分は何ができ、何ができないかと弁える能力と、他の専門性との間にどのような連携が必要かを判断する自律的統制のメカニズムを伴っている。
- これは、異なる類専門的職務能力の間の連携を誘発する専門主義の自発性のメカニズムとみなすことができる。

# ヒトとヒトのつながり[1)]

- 異なる知識モードを、共通の目標(すなわち、問題のソリューション)に向かって創造的につないでいく過程を辿る。
- この意味での知識モードは、共通の目標の文脈に連携的に埋め込まれたようなものであるから、コード化された専門的技能や方法論の部分と同時に、それをどのように連携文脈に活用していくかを判断する暗黙知的な知識の部分が働くことになる。

それは、知的な協働構築作業であることから、意欲や信頼のつながりの関係が端緒にならなければ始まらない。

したがって、端緒は常にヒトとヒトのつながりということになる。

# ヒトとヒトのつながり[1)]

# CCLの効果

- メンバー・参加者が一緒になって、釧路地域に実態を明らかにする過程である。
- 仕事では、語ることができない想いを語り、それを創造する過程である。
- 職種の垣根を超えて人と人の信頼関係を築き、繋がりが繋がりを生む。
- 個人だからできること。

**誰もが安心して生活できる地域の創造**

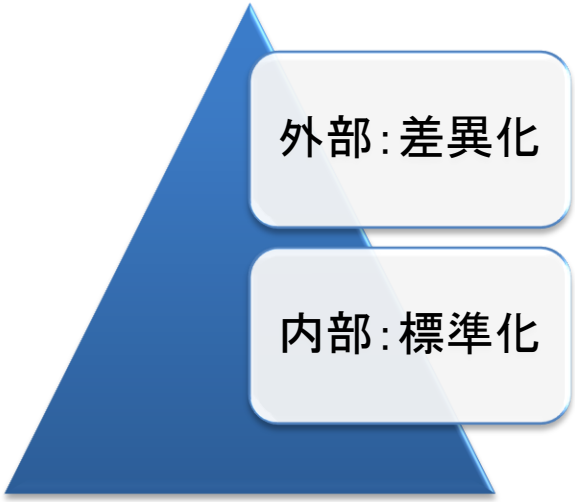
# CCLの課題

- 全員が一致するまで、本音で議論することを原則にしていることから、会議の回数が多くなったり、１回あたりの時間が長くなる。
- 活動に係る運営費は、正会員と賛助会員の会費から成り立っているため、資金が乏しい。

**会員数拡大**

**NPO法人化**

# 職能団体との関係

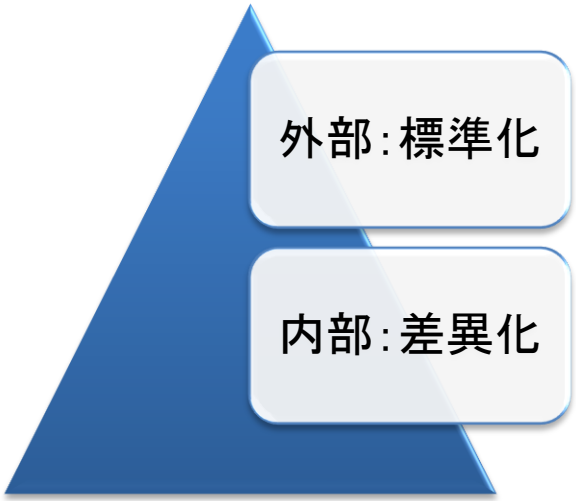



**差異化**

- 専門性の向上など

**標準化**

- 会員の資質向上など




**標準化**

- 連携に必要な知識・技術

**差異化**

- 専門性の相互理解

# CCLの活動を通して見えてきたもの

- 連携とは、人と人のつながりであること。
- 人と人によって成り立つので、“意欲”と“信頼”が重要な要素であること。
- ネットワークや組織も生きており、四苦(生・老・病・死)があること。
- 地域で一番を目指すのではなく、多様性を認めつつヒトとヒトのつながりを求めていくこと。
- クライエントの最善の利益のために。

[注]

1）小笠原浩一・島津望（2007）『地域医療・介護のネットワーク構想』千倉書房,pp.134-135.